

TRUSCO
PRO TOOL

Trusted professionals need professionally qualified tools.
The line of products brings manufacturers all the advantages of
using excellent equipment,
and will satisfy each and every user in the workplace.

M10型重量物品棚

組立・取扱説明書

このたびは、TRUSCO・スチール棚をお買い上げいただき、まことにありがとうございます。本製品は、棚板の増設・交換・補充が簡単にできます。また部品についても、ネジレや横ブレ等が生じない高精度を実現しています。塗装は、焼付塗装をほどこし、サビ・キズ等に強く、汚れも目立ちません。オフィス・工場倉庫・店舗で、末長くご使用いただけます。

M10型の棚板1段当りの耐荷重は、均等で1000kg、1台当りの最大荷重は5000kgです。

※「均等の耐荷重」とは、棚板の表面に均一に荷重をかけた場合に、耐えられる重さの合計量をいいます。

安全上のご注意 必ずお守りください

お使いになる人や、他の人への危害や財産への損害を未然に防止するため、必ずお守りいただく内容を次の要領で説明しています。

⚠ 警告

誤った使い方をすると「死亡または重傷などを負う可能性が想定される」内容を説明しています。

■耐荷重以上の荷物を置かない

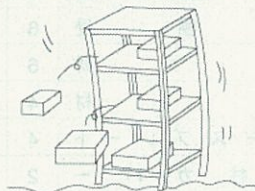
棚が傾いたり、棚板が曲がったりして危険です。同梱の「警告表示シール」を必ず貼付し、表示に従ってください。

■足をかけたり、よじのぼったりしない

転倒したり、棚板が外れたり、足を滑らせてけがをするおそれがあります。同梱の「警告シール」を必ず貼付し、表示に従ってください。

■不安定な場所に置かない

棚が倒れたり、荷物が落下して、けがをするおそれがあります。



均等荷重1000kg/段当り

 棚板足掛厳禁

⚠ 注意

誤った使い方をすると「傷害または財産への損害が発生する可能性が想定される」内容を説明しています。

■最上段棚板に荷物を置かない

棚が倒れたり、荷物が落下して、けがをするおそれがあります。

■棚が変形したままで使用しない

棚が倒れたり、荷物が落下して、けがをするおそれがあります。

■屋外や水のかかる場所に設置しない。

また、ぬれたものを置かない
棚が腐食し、倒壊するおそれがあります。

■組立はウラ面の手順に従う

手順を誤ると、組立中に部品が外れたりして、けがをするおそれがあります。

■支柱の切断など、改造をしない

棚が不安定になり危険です。また切断面のバリなどで、けがをするおそれがあります。

■荷物は静かに丁寧に載せる

乱暴に載せると棚板のたわみやはね上がり、荷物の落下で、けがをするおそれがあります。

■解体移設するときは、組立手順に逆行を行う

部品の取外し手順を誤ると、部品の落下・転倒のおそれがあります。

■危険物(薬品・壊れ物等)を置かない

破損してけがをしたり、健康を害するおそれがあります。

■棚板をウラ向けにして使用しない

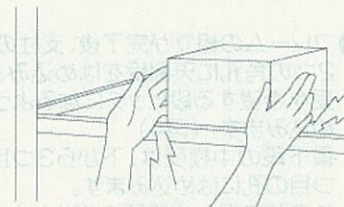
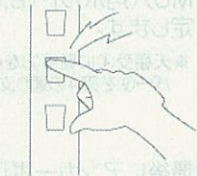
指などを折り返し部に引っかけ、けがをするおそれがあります。

■棚板のつなぎ目など、隙間に指を入れない

切断面や取付穴のカドなどで、けがをするおそれがあります

■棚によりかからない

棚が傾いて荷物が落下したり、棚が倒れて、けがをするおそれがあります。



組み立てる前に

梱包内容がすべて揃っているか、ご確認ください。

※万一不足の部品があった場合は、すぐに購入先へお知らせください。

※「警告表示シール」を同梱しています。棚板前面に貼付してください。

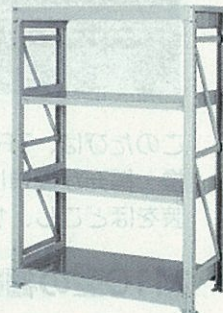
※枕木を2本ご用意ください。組立が容易になり、棚や床への傷つきを軽減します。

※組み立て時は、必ず軍手などの保護具を着用してください。

均等荷重 1000kg/段当り

 棚板足掛厳禁

天地4段仕様



●天地4段(棚奥行620D)の場合

梱包内容 段数が増設した場合、棚板・中棚受けの数が増減します。
又、棚板枚数は、棚奥行により異なります。

	品 名	基本型	連結型
①	支 柱	4	2
②	棚 板	16	16
③	ビ ャ	4	4
④	天 棚 受	2	2
⑤	中 棚 受	6	6
⑥	横 材	6	3
⑦	斜 材	4	2
⑧	ベースプレート	4	2
⑨	支柱カバー	2	1
	六角ボルト (M10×20)	56	36
	アンカーボルト (M10×50)	4	2
	六角ボルト (M6×12)	16	16
	ラ イ ナ ー	8	4

② 棚板

棚板は、奥行に応じて、所定の棚板フレーム枚数を組み合わせ、M6×12ボルト、ナットで干鳥に固定します。

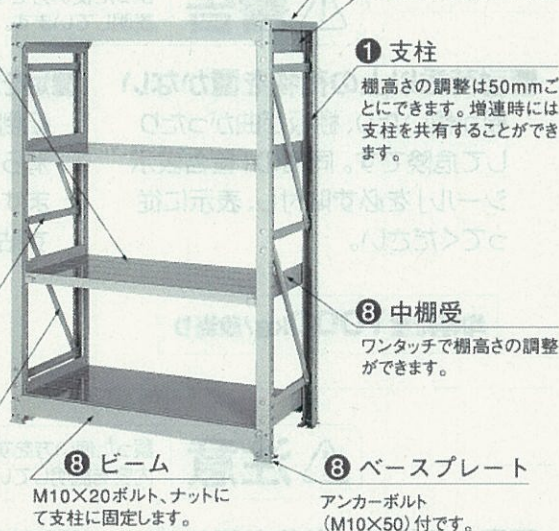
奥行 棚板フレーム枚数	
620mm	4枚
760mm	5枚
900mm	6枚

⑥ 横材

M10×20ボルト、ナットにて支柱に固定します。

⑦ 斜材

M10×20ボルト、ナットにて支柱に固定します。



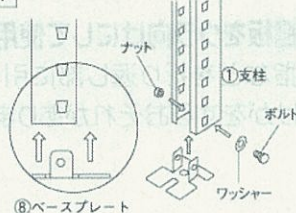
組み立てかた

① ベースプレート⑧を支柱①の底部にはめ込みM10六角ボルト (B,N,W) で仮止めします。(2ヶ所)

※支柱の上部と底部を逆にしないように注意してください。(図1)

※支柱角孔の狭くなっている方が底部です。

図1

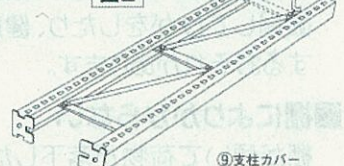


② 次に支柱2本を床に置き、横材⑥を3本、所定の支柱の丸孔に取付けM10六角ボルト (B,N,W) で仮止めします。(図2)

※H1200、H1500は横材2本です。

※この時、斜材⑦を横材⑥の孔位置に取付けM10六角ボルト (B,N,W) で仮止めします。

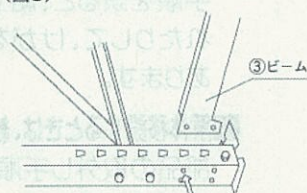
図2



③ そのフレームを覆かしたまま、ビーム③4本を支柱の孔位置に取付けます。

※ビームの向きを逆にしないように注意してください。(図3)

図3

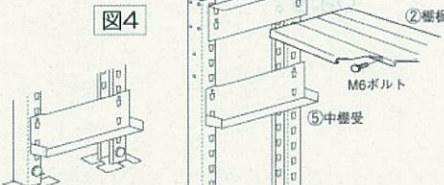


そのままフレームを起こし、反対側のビームにもフレームを取付けます。

④ フレームの組立が完了後、支柱の上部2つの角孔に天棚受をはめ込み、中棚受を希望する段ピッチになるようににはめ込みます。(図4)

最下段の中棚受は、下から3つ目と4つ目の孔にはめ込みます。
この時に仮止め箇所のボルトナットを全て締め固定します。

図4



⑤ 棚板②を棚受の上に並べ、棚板同士をM6六角ボルト (B,N) で左右干鳥に固定します。

※天棚受④に棚板②をのせた場合、必ず支柱カバー⑨を図4の通り支柱にかぶせてください。

⑥ 最後にアンカーボルトを打込みます。